

大阪府柔道整復師専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検自己評価表

【令和2年12月26日(土)実施】

資料第2号

令和元年度自己点検自己評価(平成31年4月1日～令和2年3月31日)による

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | 重点目標 | 評価 | |
|---------------------|---|--|---|----------------------------|---|
| | | | | 優れている…3 適切…2 改善が必要…1 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
| 1 教育理念・目的・育成 人材像 | 1-2 学校の特色は何か | 伝統ある最大の職能団体で業界組織、公益社団法人大阪府柔道整復師協会が運営母体であることを念頭に「柔道整復術」という技術だけではなく、柔道整復師としての職業倫理や正しい職業責任に対する知識を身に付け、高い倫理観と職業意識を兼ね備えた教育を重んじている。柔道整復師の養成校としては、全国で本校のみが4年制であり、卒業時には文部科学省から全国でこの分野では唯一「高度専門士」の称号が付与される。高度な医療者としての責務として、科学的根拠を持った医療の提供が出来る素養を身に付ける為の教育、また将来、卒業生が柔道整復師としての活躍のフィールドを広げる為の武器となる、フィールドを広げる為のスポーツに強い2つの資格を在学中に取得させ、機能訓練指導や健康づくり、フィットネス業界などにも強く参入できる複合資格の取得に取り組む。医療をベースに接育だけに留まらず柔道整復師の可能性を広げられる人材を育成することに力を注いでいる。 | 本校は柔道整復師の業界が創設した学校である。その使命を忘れず柔道整復師の業界の担保と、柔道整復師の可能性を広げ、さらなる職域の拡大に努めている。現在の取り組みや、理想に近づけるための目標を職員が意識しながら、業界の将来や方向性を的確に踏まえて具体的な方法を検討するように努めている。4年制課程を活かして医学部で行われている早期臨床実習体験の導入や、附属病院での臨床実習、機能訓練指導、総合病院での実習、日本での解剖見学実習を行い、スポーツに関する資格取得に向けては、認定トレーナー資格のCSTP及び健康実践指導者を目指す実習を行っている。また大阪マラソンの教護ボランティア活動にも参加し、学生自らが考え対応する能力を養っている。また科学的根拠を持った思考力を高める目的で学生を越えて研究授業を行い学会に参加するなど、職業人としての質を高めている。 | 評価1-0 評価2-1 評価3-3 | ・学校の特徴を活かした授業となっている。 ・またオリジナリティのある目標設定となっている。 ・4年制にした事でより深く広く教育を提供できることは評価に値する。ただその成果やメリットを広く社会や業界に周知してもらった広報活動があればと思う。 |
| 2 学校運営 | 2-4 運営方針は定められているか | (公社)大阪府柔道整復師協会の理事会、業務執行者会議にて審議され、理事会において承認された学校の事業計画、予算に基づき運営される。理事会で承認された事業計画について、教職員全員に告知する。学期、学生便覧、アドミッションポリシーなどは教職員全体で検討を加え改善案については業務執行役員会議で審議される。理事会は外部理事を含めて構成され第三者評価機関の役割を果たす。 | 学校運営は母体である(公社)大阪府柔道整復師協会において、学校業務が事業計画面予算通り適正に行われているかどうか、また業務の改善等について理事会で審議され常に点検が行われている。組織強化に向けての取り組みが必要である。 | 評価1-0 評価2-2 評価3-2 | ・会員や市民にもアドミッションポリシーが分かるような看板に設置はどうか。 ・第三者評価の役割を果たす運営母体の組織図と関係性が示されていない。 |
| 3 教育活動 | 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 実技系科目を多く取り入れ4年課程を活かした段階的な教育内容をもって構成している。各学年に応じて、集団の前での運動指導、機能訓練指導が行われる。また、スポーツ現場でのパフォーマンス向上を目的とした指導が出来る人材、また、運動障害疾患に対する鑑別・対応能力を養い4年制課程を活かして臨床現場に対応できる実技能力が身に付くように授業を組み立てている。 | 医療が進むなか柔道整復師を取り巻く背景は著しく変化し、社会が求める柔道整復師像も変化している。その社会変化に対応出来る授業を組み立てることが必要であり、またその多様化を教育できる教員の育成が必要である。 | 評価1-0 評価2-2 評価3-2 | ・HPでは掲載されていない。 ・卒業後の活躍する場を想定した様々な教育ツールがある。・受験生や市民が思い描く柔道整復師のイメージと未来の姿のギャップを入学前から払拭する事が大事と思う。 |
| 4 教育成果 | 4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | NSCAの認定資格CSGS(認定ストレンギス&コンディショニングスペシャリスト)を取得しカリフォルニアの大学で理学(研究)士として活躍中の卒業生や、医学部大学院進学者や既に博士号取得者も輩出している。これは学生の相談しやすい環境を作ることと教職員と学生、保護者と適時コミュニケーションを図ることが重要で機能している。 | 柔道整復師国家資格、他の資格取得についても合格率100%を目指している。在校生は既得国家試験不合格者に対して個別対応を行っている。2020年3月の柔道整復師の国家試験合格率も100%であった。4年課程の一般的な指導体制について検討を加えより一層強化していく。 | 評価1-0 評価2-1 評価3-3 | ・優れている。 ・昨今色々な企業も多い事から、就職後に生徒が悩まないような指導徹底は強化して下さい。 |
| 5 学生支援 | 5-23 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか | (公社)大阪府柔道整復師協会の役員の方による就職等個別進路相談が行われている。また、(公社)大阪府柔道整復師協会の会員の先生方の施術所からの一般来入に際しては在校生、卒業生ともに図書室にて自由に閲覧できるようにしている。 | 学生の休校室を拡大し、教員も指導し入れることも出来るホワイトボード設置の自習室を設置した。この自習室では、学生が指導者となりクラスメイトを指導している場面も見られるようになってきた。教室室内では、面談スペースを拡大し在校生や卒業生の個別相談をより強化する体制を確保した。少人数制の特徴を活かしたサポート的な支援体制を今後も継続したい。 | 評価1-0 評価2-1 評価3-3 | ・学生のメンタルサポートについての相談窓口の設置について明示されていない。 ・例えば専任教員の先生方に業界の臨床の話などを伝える機会を設けOJTグループとして協同組合を活用してみてもどうか。 |
| 6 教育環境 | 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 海外研修は実施していないが、現在まで病院実習や解剖見学実習、大阪マラソンランナーサービスでの教護実習等を行っている。次年度に向けて介護施設での実習も追加拡大を含め実習施設の拡充を図り、教育体制の整備を行っている。学外実習、研修終了後において生活態度の改善や卒業成績職業意識の向上がみられる。提出された報告書、実習レポートからは学生の満足度の状況も把握している。 | 医療現場実習や、学外実習としてフィットネス分野やスポーツ現場で学年を跨いで段階的に研修を行っている。学年が上がるごとに職業意識の向上がみられる。4年生では総合病院での宿泊研修を行っている。柔道整復師として資格取得後の進路や考え方など、意識向上の一端を担っている。 | 評価1-0 評価2-0 評価3-4 | ・十分に整っている。 ・例えばPTやOTなどの異業種との交流が宿泊研修時に出来たら良いと思います。 |
| 7 学生の募集と受け入れ | 7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 学校パンフレット、ホームページ、SNS、オープンキャンパス等で就職先・進学後の医学博士号取得などの実績、海外での活躍者の実績、資格取得実績である新卒者の合格率を教育実績として毎年公表している。また、高校訪問時にも、学会活動の様子とその後の進路、スポーツ分野の資格からフィットネス分野での進路という様々なキャリア形成が分かる資料を提示しながら教育成果を直接伝えている。 | 就職先の名称とその活動写真を添えて卒業生の進路の紹介をホームページ上で行うことや、複合資格で実際に活躍する卒業生を活動事例内で紹介するなど、学校以外の企業様の協力においても広く周知出来るよう努めている。そのような資格取得実績卒業生の活躍等はSNSや学校案内パンフレット、学校だより等で公開している。 | 評価1-0 評価2-1 評価3-3 | ・十分に整っている。 ・他校では美容＝柔道整復師のイメージで入学希望者があると聞いた。本校は業界の先進的立場として社会性を含めてしっかり教育をお願いします。 |
| 8 財務 | 8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | (公社)大阪府柔道整復師協会が公益事業の1つとして学校運営を行っている。単年度の予算・決算は妥当であり、会計監査については本会が実施する監査の中で適切に行われている。年度予算、中期計画は(公社)大阪府柔道整復師協会の役割に基づく目的・目標に照らし合わせて有効かつ妥当なものである。 | 柔道整復師業界全体の自浄作用を促し、柔道整復師のレベルアップを図るには教育水準を上げることが最も効果的であり必要である。医療者であることの責任の重さを伝え4年制で職業型医療人を育成する教育課程とその意味を広く理解してもらい定員が確保できる取り組みを行う。明確な事業目的、ビジョンを持って運営を行っている。 | 評価1-0 評価2-2 評価3-1 | ・評価に難しく未回答としました。 ・コロナ禍で生徒募集も難しいですが、より多くの学校に出向され来校のビジョンを伝える営業は必要ではないかと思えます。 |
| 9 法令等の遵守 | 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 個人情報の保護に関し、教職員学生等に対する啓発活動を実施している。また、個人のパソコンに学生の個人情報を保存するのではなく、日東システム開発のInfoリッパというクラウド共有システムで学生管理を行い、閲覧の範囲や制限を管理者が管理している。教員間での共有は、個人情報保護方針に基づき実施している。 | 非常勤講師も含めた教職員には、入社時に個人情報取り扱いに関し、口頭または書面にて説明、同意書ももらっている。さらに、医療現場実習やスポーツ現場実習に入る学生にも、患者さんのプライバシーやクライアントさんのプライバシーに関して指導し、個人情報取扱に関し同意書を書生に対して書面でも出すことを指導している。 | 評価1-0 評価2-2 評価3-1 | ・評価に難しく未回答としました。 ・問題ないと思えます。 |
| 10 社会貢献 | 10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 臨床実習では附属病院、東海医療センター、広野高原病院などと連携・交流している。学校施設内では、健康づくり事業財団との連携から直接講師をお招きし、健康日本21の施策で始まった健康運動実践指導者資格の説明を受ける連携授業を展開している。さらに、厚生労働省委託事業である大阪キャリア形成サポートセンターからは、企業コンサルタントの講師派遣を行って頂き、ビジネスマナーやポジティブシンキングの講座を行っている。また、西税務署からは税理士の先生をお招きした租税講習等も行っている。 | 様々な企業や他の分野の職種の方からの学びを経験し、豊かな教養を基盤とした医療者としての人格の陶冶、現代医学と伝統医学が融合した教育課程をもって国民医療と地域社会、国際社会にも貢献できる専門的職業人の育成を目標としている。社会貢献活動においては、本校教員が西区の区民を対象とした体操教室の開催や、近隣の保育園園児への幼児体育の指導、正しい柔道整復師の業務への理解を深める為の講座などを展開し地域貢献活動を展開している。 | 評価1-0 評価2-0 評価3-4 | ・地域貢献活動についてもHP上に掲載しており、貢献度が評価される。 ・社会貢献の方法も時代の流れで変化があると思います。その中で生徒には人の役に立つ喜びや尊厳を学んで欲しいと思いますし、社会に対しても柔道整復師の存在をアピールして下さい。 |
| 11 国際交流 | 11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか | 本校の卒業生であるグルバダム・ムンフズルさんを介してモンゴル国とは日本柔道整復師協会との交流会を通して校長自ら交流をしている。また、本校の専任教員はオランダ(The Open psychology Journal 2017.10.118-126)やアメリカ(Nove Science Publishers, Inc. NY 2015)の医学雑誌に原稿論文を掲載し、アクセプトまでにかかるやりとりの中で、海外の査読者や研究者と交流している。 | 卒業生はモンゴル国で活躍するもの、アメリカカリフォルニアの大学の修士課程に在籍し研究中のものなど、国際舞台で活躍しようとする人材が輩出出来る。今後も専任がそのような活動をバックアップし、国際的な活躍が出来る人材育成をしてゆきたい。 | 評価1-0 評価2-1 評価3-3 | ・今はさらにグローバル化を図る方策を立てて推進して下さい。 ・外貨の勉強とモンゴルは最遠です。 ・OBのズル先生と連絡を取って在学中若しくは卒業後に研修できる仕組みを取られてはいいかと思う。 |